

ドラッカーの小さな学校 開講！ 2020 年度（受講者報告その1）

日 時：2021 年 2 月 20 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分

開催形式：オンライン開催（Zoom）

内 容：

本年度の「ドラッカー小さな学校」は、コロナ禍の中、オンラインでの開催となった。昨年度は、急速に拡大する新型コロナウイルスの影響で中止となったが、本年度は感染対策として初のオンライン開催として、1 年ぶり 5 回目の開催となった。本年度のテーマは、「歴史的転換点にある日本とマネジメントの課題 ～オンラインで集中的に学ぶ!! ドラッカーの思想とマネジメント～」として、事前予約は満員という高い関心の中で開催日を迎えた。初めてのオンライン開催となったが、スムーズな進行の下で総勢 45 名の参加者による白熱した 4 時間を過ごすことができた。

ドラッカー没後 15 年の年に当たる 2020 年「ドラッカーの小さな学校」の最初の講演は、井坂康志氏（ドラッカー学会理事）による「思想としてのマネジメントとその源流」である。ドラッカーの知的体系を一本の樹に喩え、マネジメントの根源を大樹の根っことしてドラッカーの生誕から幼少期の体験、知識豊かな環境で育まれた思想を辿った。オーストリアから、ドイツ、イギリス、アメリカへの移住と大戦中の社会環境は、ドラッカーがマネジメントの発明に至る社会観に大きな影響を与えたことを改めて学ぶ機会となった。本年度の「ドラッカーの小さな学校」冒頭講演として、ドラッカーのマネジメント思想の根源に立ち戻る内容は、マネジメント・スコアカード（以下 MSC）の理解を深めることに大いに役立つと思われる。

井坂氏の講演に続き、阪井和男氏（ドラッカー学会代表理事）による「市民性の創造とマネジメント マネジメントと市民性は「学習」によって創造されるか？」の講演が行われた。井坂氏のドラッカーの樹から、その特徴である「社会生態学」、「マネジメント」、「人と社会」、「フィードバックと学習」を掘り下げる講演である。さらに「マネジメントの創造」と「市民性の創造」、それらを統合する「学習」についての講演は、ドラッカーのマネジメントを理解するための視座となった。理論としての「社会生態学」、実践としての「マネジメント」について、鳥の目、虫の目から探求する講演である。講演を通じて、「マネジメントはサイエンスであるか？」という大きな命題の解明に向けた興味深い内容であった。

坂井氏の講演に続き、藤島秀記（ドラッカー学会理事）氏による「転換点に立つ日本とマネジメント」の講演が行われた。ドラッカーの歴史観を振り返り、2001 年クレアモントのドラッカーの自宅で収録された日本企業に向けて述べられた貴重な VTR「P.F. ドラッカーと考える 21 世紀の経営」を視聴した。社会ニーズを認識すること知識労働者の生産性を上げることは、収録後 20 年を経たコロナ禍の現代社会にも共通する大きな命題である。この命題を解決するためのマネジメント、その手法である MSC の役割を理解する機会となった。

最後の講演は、森岡謙仁（ドラッカー学会理事）氏による「個人の強みを活かし、組織と社会づくりに貢献する MSC」の講演とMSC ケーススタディが行われた。森岡理事が2007年から続けているMSC 研究の経緯、マネジメントの役割、社会の変遷からコロナ禍によって社会を変革させている要因とそれを受けてのマネジメントの進化と最新のMSC 体系図について丁寧に説明頂いた。前半の講演で学んだドラッカーの社会観やマネジメント思想の知見と、現代社会に適応した最新のMSC 体系が融合することで、新たな価値が創造されることが期待される。

講義の後、森岡理事の指導の下 MSC ケーススタディが行われた。ケーススタディのテーマは、「近隣の駅前繁華街や駅周辺の住宅地に、10 店舗の焼き肉店を経営している。これまでは勤労者・学生・家族連れも多数ある繁盛店（非上場）であったが、コロナ禍で売り上げは8割減である。」というコロナ禍の現代社会でも大きく取り上げられている事例であり、8つの重要領域目標の設定と事業の再定義を検討する内容である。グループディスカッションでは、参加者は4つのセッションに分かれ、ドラッカー「マネジメント」研究会 MSC 実践研究部会のメンバーが各セッションのナビゲーターを務めた。ナビゲーターの進行で、活発な議論が交わされた。今回のテーマは、コロナ禍の飲食店経営という身近なテーマであり、多くの実践的な目標が挙げられるとともに様々な事業再定義が提示された。ケーススタディの後で行われた発表と講評を通じて共有された知見は、参加者の今後の活動やMSC 研究に役立つと思われる。

今回、私はナビゲーターとして参加したが、事前にリハーサルや打ち合わせも行った。事前リハーサルでは、グループディスカッション用演習シートの準備や取り上げる事例の検討、ナビゲーターによる模擬ディスカッションなどを実施した。今回初めてのナビゲーターを拝命し、期待と緊張の中で当日を迎えたが、参加者の協力もありスムーズに進めることができた。当日のディスカッションでは、新たなメニューの提案や飲食店という業態を超えた新たなビジネスモデルなど、多くの積極的な提案に驚くほどであった。また、大豆ミートやフードロスの提案など社会環境への取り組みなど、現代社会に望まれている多くの示唆も提示された。今回のグループディスカッションを通じて、参加者のモチベーションや社会参加への意欲も高まり、有意義な討議が行えたことについて参加者の皆様に改めて感謝の意を表したい。

今回の「ドラッカーの小さな学校」は、以前までの2回コースでなく1日で行われた。13時30分から17時30分という短い時間で、ドラッカーのマネジメント思想やMSC の理解と実践活用が学べる。濃厚で充実した半日を過ごすことができたことは、ひとえにご登壇、進行頂きました理事のみなさまをはじめ、事前の準備と当日のオンライン環境の運営ホスト役としてお務めいただいたドラッカー「マネジメント」研究会の高橋磨氏のご尽力であり、この場を借りて深く感謝申し上げます。

（第3セッション ナビゲーター 佐藤 幸夫）